



平成 23 年 11 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ダイフク
代表者名 代表取締役社長 北條 正樹
(コード：6383、東証・大証第 1 部)
問合せ先 取締役常務執行役員 猪原 幹夫
(TEL. 06-6472-1261)

会社分割（簡易吸収分割）に関するお知らせ

当社は、平成 23 年 11 月 14 日開催の取締役会において、下記のとおり、当社の住宅関連ビジネスを株式会社ルネス研究所（以下、「ルネス研究所」と言う）に承継させることを決議いたしましたのでお知らせいたします。

ルネス研究所につきましては、現時点では当社の持分法を適用しない関連会社ですが、当会社分割の効力発生日において当社の完全子会社となる予定です。その方法等については後述いたします。

なお、本会社分割は、当社において総資産の変動額が直前事業年度の末日における純資産額の 10%未満、かつ、売上高の変動額が直前の事業年度の売上高の 3%未満であると見込まれるため、開示事項・内容を一部省略して開示しております。

記

1. 会社分割の目的

当社およびルネス研究所の住宅関連ビジネス（以下、「ルネスビジネス」と言う）とは、当社とルネス研究所で保有する、「逆梁工法」を代表とするマンション等の建設工法に関する特許の使用を有償で建設会社等に許諾することのほか、ダイフクが関連部材を製造・販売するものです。

国内の住宅業界全般が厳しい事業環境にある中、ルネスビジネスがターゲットとする大都市およびその近郊における賃貸マンションの需要は、単身世帯数の増加を背景に堅調に推移するものと予想しております。

これまでは、当社の L S P（ライフスタイルプロダクツ）事業部とルネス研究所がそれぞれ並立的にビジネスを展開してきましたが、事業の集約・統合を実施し、ルネスビジネス全体の経営効率向上と収益改善を推進するため、当社のルネスビジネスをルネス研究所に承継させる吸収分割契約を締結することといたしました。

2. 会社分割の要旨

(1) 会社分割の日程

分割契約承認取締役会決議	平成 23 年 11 月 14 日
吸収分割契約締結日	平成 23 年 12 月 2 日 (予定)
吸収分割契約承認株主総会 (ルネス研究所)	平成 23 年 12 月 14 日 (予定)
吸収分割効力発生日	平成 24 年 4 月 1 日 (予定)

(注) 本分割は、会社法 784 条 3 項に規定する簡易吸収分割であり、当社においては株主総会の承認を得ることなく行います。

(2) 分割方法

当社を分割会社とし、ルネス研究所を承継会社とする吸収分割であります。

(3) 株式の割当

現時点では、当社の持分法を適用しない関連会社であるルネス研究所は、効力発生日に当社の完全子会社となる予定です。したがって、本分割は当社の完全子会社に部門を承継させる吸収分割であることから、株式の割当は行いません。

(4) 分割会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取り扱い

当社は、現在新株予約権及び新株予約権付社債は発行していません。

(5) 分割により減少する資本金等

本分割による資本金の減少はありません。

(6) 承継会社が承継する権利義務

効力発生日において、本吸収分割により承継するビジネスを遂行していくうえで必要な資産、負債及びこれに付随する権利義務を承継いたします。

(7) 債務履行の見込み

効力発生日以降における当社およびルネス研究所が負担すべき債務については、履行の見込みがあると判断しております。

3. 分割当事会社の概要

	分割会社 (平成 23 年 3 月 31 日現在)	承継会社 (平成 23 年 3 月 31 日現在)
(1) 名称	株式会社ダイフク	株式会社ルネス研究所
(2) 所在地	大阪市西淀川区御幣島 3 丁目 2 番 11 号	大分市高城新町 14 番 16 号高城ルネスビル 2 階
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 北條 正樹	代表取締役社長 飯田 郁夫

(4) 事業内容	マテリアルハンドリングシステム・機器、洗車機等の製造・販売	ルネス工法関連特許の使用許諾 ルネス工法：マンションの工法において逆梁の躯体構造の梁間を専用の部材（Σビーム）で渡し2重床を形成する床組み工法				
(5) 資本金	8,024百万円	202百万円				
(6) 設立年月日	昭和12年5月20日	平成5年8月2日				
(7) 発行済株式数	113,671,491株	4,040株				
(8) 決算期	3月31日	3月31日				
(9) 大株主及び持株比率	日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) 6.89% 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) 6.01% 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9) 5.44% 株式会社みずほコーポレート銀行 4.83% 株式会社三井住友銀行 3.59% 株式会社三菱東京UFJ銀行 3.37% 日本生命保険相互会社 3.02%	株式会社飯田建築設計事務所 49.50% 株式会社ダイフク 49.50% 飯田郁夫（個人） 1.00%				
(10) 当事会社間の関係	資本関係	分割会社が発行済株式の49.5%を保有しております。				
	人的関係	分割会社の取締役1名が承継会社の取締役を兼務しております。				
	取引関係	分割会社は、承継会社に対し特許の使用許諾料を支払っております。				
(11) 最近3年間の経営成績及び財政状態						
決算期	株式会社ダイフク（連結）			株式会社ルネス研究所（単体）		
	平成21年 3月期	平成22年 3月期	平成23年 3月期	平成21年 3月期	平成22年 3月期	平成23年 3月期
純資産	82,810	81,295	77,714	79	58	△6
総資産	194,727	165,430	163,388	468	414	343
1株当たり純資産（円）	718.68	716.07	683.39	19,683.04	14,565.51	△1,641.78
売上高	242,182	154,208	159,263	71	19	16
営業利益	15,015	80	1,726	3	△17	△15
経常利益	14,882	△135	1,345	0	△20	△17
当期純利益	7,851	1,018	269	0	△20	△65
1株当たり当期純利益（円）	70.29	9.20	2.43	245.61	△5,117.53	△16,207.29

（単位：百万円。特記しているものを除く。）

4. 分割する部門の概要

(1) 分割する部門の内容

当社が保有するルネスビジネス関連の特許許諾と部材の販売を担当する部門であります。

(2) 分割する部門の経営成績（平成 23 年 3 月期）

	ルネス部門の実績（a）	当社単体の実績（b）	比率（a/b）
売上高	93 百万円	111,542 百万円	0.0%

(3) 分割する資産、負債の項目及び金額

資産		負債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	－百万円	流動負債	－百万円
固定資産	223 百万円	固定負債	4 百万円
資産合計	223 百万円	負債合計	4 百万円

平成 23 年 3 月 31 日時点の帳簿価額で試算しておりますので、実際に分割される金額は上記と変動する可能性があります

5. 分割後の分割会社及び承継会社の状況

(1) 分割会社の状況

本会社分割による当社の名称、所在地、代表者の役職・氏名、事業内容、資本金、決算期の変更はありません。

(2) 承継会社の状況

	承継会社 (平成 24 年 4 月 1 日予定)
(1) 名称	株式会社ダイフクルネス
(2) 所在地	大阪市西淀川区御幣島 3 丁目 2 番 11 号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 浮ヶ谷 宏
(4) 事業内容	ルネス工法関連特許の使用許諾及び関連部材の販売
(5) 資本金	100 百万円
(6) 決算期	3 月 31 日

平成 23 年 12 月 14 日に開催予定のルネス研究所株主総会の決議を条件として、ルネス研究所は効力発生日に、100%減資すると同時に当社宛に第三者割当増資を行い当社の完全子会社となる予定であります。

なお、株式会社ルネス研究所の代表取締役社長・飯田郁夫氏は、会社分割後、株式会社ダイフクルネスの取締役会長に就任する予定です。

6. 今後の見通し

承継会社は当社の完全子会社となるため、本分割が当社の連結業績に与える影響はありません。
また、単体業績に与える影響は軽微であります。

(参考) 当期連結業績予想 (平成 23 年 8 月 10 日公表分) および前期連結実績

(百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当期業績予想 (平成 24 年 3 月期)	195,000	3,500	3,000	800
前期業績 (平成 23 年 3 月期)	159,263	1,726	1,345	269

以 上

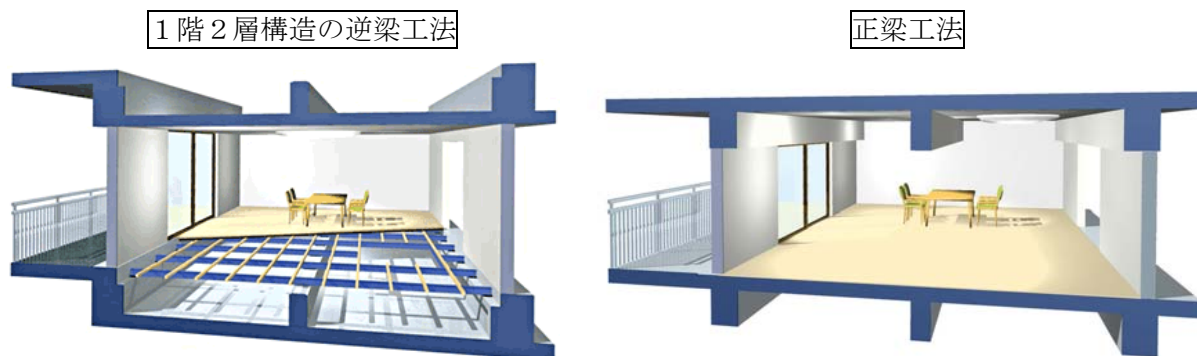
(参考資料)

逆梁工法

従来の「正梁工法」に対し、逆梁にすることで、梁と梁の間に高強度専用部材（ Σ ビーム）を渡して床の構造部分（浮床）を形成し、床上と床下に2層の空間を作り出すというもの。

1986年に（株）飯田建築設計事務所が開発に着手し、今日まで様々な改善を加えて完成したマンション工法で、国土交通省が推奨する長期優良住宅制度にも採択されている。

本年9月末現在で、賃貸マンションを中心に竣工14,000戸（850棟）を突破した。



<主な特長>

1. 床下空間

- ・浮床により床下に生み出される空間を収納スペースとして活用できる。（写真1）
- ・床下に設備機器を配線することで、床下空間に作業者が出入りすることができ、設備更新での時間的、費用的負担を大幅に軽減できる。（メンテナンスフリー、写真2）



写真1

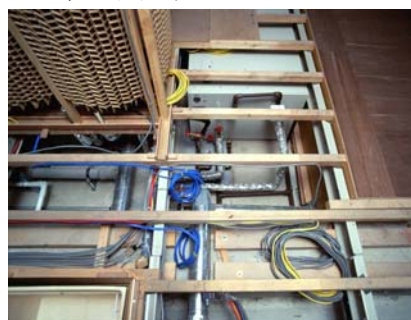


写真2

2. 浮床

- ・梁と梁との間を専用部材（ Σ ビーム）で渡す浮床構造で、上階の重量・衝撃が床スラブ（下階の天上裏）に直接かからないため、高い遮音性を持つ。
- ・浮床の高さを、 Σ ビームで戸別にレベル調整することができるため、和室や浴室との段差の無いフラットな室内を容易に実現できる。（バリアフリー）

3. 梁の無い居住空間

- ・梁が居住空間に出てこないため、「正梁工法」のように梁の位置で間仕切りが制限されることもなく、間仕切り変更が比較的容易にできる。
- ・外壁側大梁も居住空間には出てこない。外壁側の窓は天井高さ一杯までの開口をとることができ、通風性・採光性に優れている。

4. S・I住宅（200年住宅）

- ・国土交通省の提唱するスケルトン（躯体）・インフィル（内装）住宅（200年住宅）に最も合致した工法として期待されており、実際にこの工法で建てられた賃貸マンションの入居率は平均 98.4%と高く、近隣相場と比較して 8.16%高い家賃実績を誇る。

以上